

進捗報告書（実行団体）

事業名:	しごと里親ネットワーク構築事業
資金分配団体:	一般社団法人SINKa
実行団体名:	NPO法人国際教育支援機構スマイリーフラワーズ
実施時期:	2021年7月～2022年2月
事業対象地域:	福岡県
事業対象者:	児童養護施設等に在園又は卒園後の若者

Version 1.2

日付: 2022年1月18日

I. 事業概要

事業概要
法人設立から10年間に渡って取り組んできた自立の為の準備支援に繋がる、社会人としての就労定着を目的とした就労支援事業です。当事業では社会的養護から自立する若者が抱える課題（保証人の有無や住まいの問題、社会経験の少なさや養育背景からくる課題など）を理解した上で雇用し、また社会人として育成してくれる雇用主(仕事里親)のネットワーク構築を目指して、登録企業には就業希望者の情報提供並びに面談設定に加えて、定期的な勉強研修会、受入体験、受入企業情報交換会などの機会を提供し、理解者としての企業を育成していきます。また施設及び退所者には登録企業の紹介を行い、就労定着まで長期に伴走し支援します。

II. 進捗報告の概要

総括
実際に活動を始めて関係者からヒアリングを行う中で様々な気付きがあり、都度組織内で話し合っ調整を繰り返してきました。その為、進捗が遅れたことは否めず、現時点で事業全体の40%程度の進捗です。また課題として新型コロナウイルスの感染再拡大による影響で企業や施設への訪問が再び難しくなったため、まずはオンラインのみで登録を行い、感染収束後に順次訪問した上で、対象者への紹介を行う方式に切り替えて実施しています。

III. 活動実績

アウトプット（今回の事業実施で達成される状態）	進捗状況
福岡県内および近郊において趣旨に理解賛同する企業（仕事里親）100社を集め、且つ福岡県内全20の児童養護施設から退所児童及び在園児童への情報提供協力を取り付け実施します。	現時点での企業登録完了率は想定24%（24社/100社）に留まります。背景としましては、事業開始後に行った企業並びに児童養護施設関係者、更には当事者となる支援対象者からのヒアリングを通じて都度事業内容の追加更新を行い、より実態に即した活動へと精査していくことができましたが、その分、出だしに時間を要してしまいました。更には開始直後に新型コロナ感染拡大に伴う緊急事態宣言が重なったこともあり、事業の趣旨や協力の取り付けに苦戦した事も要因として挙げられます。それでも、10月に入ってそれまでの地道なヒアリングと事業内容の更新が功を奏する形で表れ、協力者並びに協力企業が集まりだすようになりました。目標協力企業数に対する進捗は現時点で24%に留まりますが、事業内容の基盤を固め、今後の持続的な事業の活用及び発展性という観点においては、非常に重要な期間であったと感じています。今後はこの基盤をもとに当初の目標値達成に向けて取り組んで参りたいと思います。

活動	進捗状況	概要
施設等職員10名にヒアリング	ほぼ計画通り	出だしに緊急事態宣言が重なり、対面ができず細かい説明や意見のヒアリングが難しかったが、なんとか電話やZOOMなどを組み合わせて完了済み
既存関係先企業への声掛け	ほぼ計画通り	出だしに緊急事態宣言が重なり、対面ができず細かい説明や意見のヒアリングが難しかったが、なんとか電話やZOOMなどを組み合わせて完了済み
10社登録	ほぼ計画通り	想定より時間はかかったが完了済み
専用WEBページ作成	遅延あり	出だしの遅れと、実際に職員や企業へのヒアリングを通じて気付いたことを基に、プログラムをより成果に繋がるものに更新する為の作業で想定より遅れが出たが、進めながら更新していくという方針で現時点では50%の完成度で公開済み
50社登録	遅延あり	出だしの遅れと現場のヒアリングによるプログラムの更新に時間を要したことで、現時点の登録企業数は24社で進捗率は約48%の状況
メディアリリース	遅延あり	個別にてアプローチ中
福岡県内全20施設の登録	遅延あり	出だしの遅れと現場のヒアリングによるプログラムの更新に時間を要したことで、現時点での施設案内完了数は6施設で進捗率は約30%の状況
企業勉強会の実施	ほぼ計画通り	定期的な説明会と勉強会を実施している
100社登録	遅延あり	事業完遂までの進捗率は現時点で24%の達成率
各施設への情報提供	遅延あり	現時点では未着手

IV. 事業実施後（1年以降）に目標とする状態への所感（中間時点）

自由記述	
<p>当事業は最終的に福岡県内において児童養護施設を含む社会的養護の元で暮らす、または卒園した若者たちに対して、彼ら彼女らが自立に不可欠となる、仕事に対する認知を広げ体験する機会を創り出すと同時に、対象者の背景を理解し雇用して下さる協力企業の輪を広げていくことを目的として開始しました。その点においては初期の関係各所へのヒアリングが非常に重要な意味を成し、企業側、施設側の双方において求める認識の違いを活動初期にすり合わせできたことは、今後の持続発展的な事業実施の為に大きな前進であったと感じています。現状で策定した事業内容を丁寧に説明していけば着実に協力企業を増やしていくことができると確信していますが、今後は未だ続く新型コロナ感染再拡大の影響を受けらる中で、如何にスピード感を持って拡充していけるかが課題になると考えています。協力企業の登録に際しては、施設等児童及び卒園者の紹介を前提としている為、必ず実際に会社を訪問確認した上で登録を行ってまいりましたが、今後はまずはオンラインでの登録を行い、その上で、感染拡大収束後に改めて訪問確認を行った上で、対象者への紹介を行います。</p>	

V. インプット

		2020年度	2021年度	合計	執行金額	執行率
事業費	直接事業費	¥0	¥3,551,000	¥3,551,000	¥2,279,296	64%
	管理的経費	¥0	¥462,000	¥462,000	¥316,937	69%
合計		¥0	¥4,013,000	¥4,013,000	¥2,596,233	65%
補足説明		* 2022/12/31確認分				

VI. 事業上の課題

事業実施上顕在化したリスク/阻害要因とその対応
<p>活動初期のヒアリングで判明した企業側と施設側の求める支援の隔たりが、事業を進める上での課題となりました。企業側は能力はあるが機会がない児童や若者への支援を希望しているのに対して、施設側は就業が困難なより難しいケースの対象者への支援を求めているという点でした。これには社会的養護の養育において、より家庭的な環境での養育を推進するという方針のもと、これまで児童養護施設に措置されてきた児童が里親家庭での養育を優先され、児童養護施設にはより専門性の高い児童の養育が求められるようになったという背景がありました。これにより当事業を持続発展的に進める上で、対象をより明確にする必要が求められました。また同時に、里親家庭(養育)に措置され18歳で巣立つ若者が、これまでの施設を卒園する若者と同じ課題を抱えることも分かりました。そこで協力企業にも相談の上、当事業においては施設に加えて養育里親を含む、専門的な支援を必要としない、能力はあるが機会が無い児童や卒園者への支援と対象を絞り、その中でロールモデルの育成を目指して取り組む事とし、専門的支援を必要とする児童においては協力団体等への紹介対応とする方針にしました。</p>

VII. その他

自由記述
<p>対象児童の明確化には組織内でも議論があり、取り纏めに時間を要しましたが、やはり専門的な支援を必要とする児童の受入れを企業に求めるには負担が大きく、協力企業の拡充が非常に困難となる事が想定され、且つ双方にとっても中途半端な受入となる事が予測された為、まずは当該事業並びに協力企業の力が最大限に発揮できる対象に焦点を絞り、その上で協力企業が拡充していく中で、専門的支援を必要とする対象者の受入れにも対応できる協力企業が現れた時に改めて対応するという事にしました。</p>

VIII. 広報実績

広報内容	有無	内容
メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	有	ラジオ出演 2021年11月6日 コミュニティラジオ天神「Global Café」
広報制作物等	有	名刺
報告書等	無	

IX. ガバナンス・コンプライアンス実績

ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1. 社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。	はい	
2. 内部通報制度は整備されていますか。	はい	内部に窓口を開設置しました。